

和光市地域公共交通計画の評価・検証について

1. 現行計画の評価指標及び数値目標について

現行の和光市地域公共交通計画における評価指標及び数値目標は下記のとおり

基本方針	計画の目標	評価指標	現状値	目標値	測定方法
市内の移動しやすさ向上	目標①: 利便性の高い地域公共交通軸の維持・充実	路線バスの年間利用者数	3,157 千人/年 (令和 2 年度)	5,000 千人/年 (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
	目標②: 拠点までの市内短距離交通の充実	市内循環バスの利用者数	110 千人/年 (令和 2 年度)	181 千人/年 (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
		市内循環バスの収支率	8.7% (令和 2 年度)	約 35% (令和 7 年度)	バス事業者からの提供データを集計
	目標③: 狭隘道路や坂道等による公共交通の不便性の解消	公共交通空白・不便地域の居住人口の割合	28.4% (令和 3 年度)	約 10% (令和 8 年度)	GIS 等でバス停カバー地域外の人口を求め、全人口に対する割合を算出
		市民の満足度	29.4% (令和 3 年度)	約 40% (令和 8 年度)	市民アンケートで計測
まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通	目標④: 誰もが迷わず分かりやすい利用環境・情報提供	オープンデータ化率	35% (令和 3 年度)	約 44% (令和 8 年度)	市内バス路線のうち、オープンデータ化済みの路線の割合を算出
		情報提供等の整備箇所数	1 箇所 (令和 3 年度)	4 箇所 (令和 8 年度)	整備した箇所数を累計して算出
		市民の満足度(再掲)	29.4% (令和 3 年度)	約 40% (令和 8 年度)	市民アンケートで計測
	目標⑤: 交通サービスを提供するための基盤整備及び体制構築	交通空間の整備箇所数	—	5 箇所 (令和 8 年度)	整備した箇所数を累計して算出
		部会・研究会等の開催回数	—	10 回 (令和 8 年度)	開催回数を累計して算出
		モビリティマネジメント実施回数	—	5 回 (令和 8 年度)	実施回数を累計して算出
多様な移動による地域活性化	目標⑥: 多様な交通サービスの有機的な連携	主要拠点でのバス同士の平均待ち時間 (和光市駅で埼玉病院方面へ乗り継ぐ場合)	約 30 分 (令和 3 年度)	約 10 分 (令和 8 年度)	路線バス・市内循環バス等の時刻表から、乗り継ぎ時の平均待ち時間を算出

2. 各指標の目標値に対する達成状況

各評価指標の現在までの達成状況は下記のとおり

2-1 目標1_利便性の高い地域公共交通軸の維持・充実

評価指標：路線バスの年間利用者数

現状値	目標値	達成状況
3,157千人/年 (R2年度)	5,000千人 (R7年度)	4,109千人 (R6年度)

※令和2年度の利用者数から約95万人増加しており、前年度と比較しても約5万人の増加となっている一方、バス全体の利用者減少や路線見直しによる運行便数の減少等により、令和元年度の利用者水準（4,859千人）や令和7年度の目標値には届いていない状況となっている。

2-2 目標2_拠点までの市内短距離交通の充実

評価指標①：市内循環バスの利用者数

現状値	目標値	達成状況
110千人/年 (R2年度)	181千人/年 (R7年度)	164千人/年 (R6年度)

※令和2年度の利用者数から約5万人、令和5年度の利用者数（124千人）から約4万人の増加となっている。令和6年1月の運行見直しを機に利用者数が大幅に増加した。令和7年度の目標達成に向け、引き続き、利便性向上や利用促進策の取組を進める。

評価指標②：市内循環バスの収支率

現状値	目標値	達成状況
8.7% (R2年度)	約35% (R7年度)	20.8% (R6年度)

※令和2年度の収支率から約12%、令和5年度の収支率（13.7%）から約7%の増加となっている。運賃収入の増加に伴い、収支率も増加しているが、燃料費や人件費等の上昇により経費も増加している。利用者数の増加による収支率の改善についても取り組んでいく。

2-3 目標3_狭隘道路や坂道等による公共交通の不便性の解消

評価指標①：公共交通空白・不便地域の居住人口の割合

現状値	目標値	達成状況
28.4% (R2年度)	約10% (R8年度)	18.1% (R6年度)

※市内循環バスの運行経路等の見直しにより、公共交通空白地域における居住人口割合は令和2年度から約10%減少した。なお、公共交通空白地域においては、タクシー利用料金助成事業による高齢者の移動支援策を実施している。また、公共交通不便地域におけるタクシー利用料金助成事業についても、令和8年1月から実証事業を開始した。（当該実証事業について、詳細は報告2にて御報告します。）

評価指標②：市民の満足度

現状値	目標値	達成状況
29.4% (R2年度)	約40% (R8年度)	※地域公共交通計画見直し時に実施予定の市民アンケート結果より把握

※市民の満足度については、地域公共交通計画見直しの際に実施予定の市民アンケート（対象者数：3,000人）により達成状況を把握する。

2-4 目標 4_誰もが迷わず分かりやすい利用環境・情報提供

評価指標①：オープンデータ化率 **(達成済)**

現状値	目標値	達成状況
35% (R2年度)	約44% (R8年度)	100% (R6年度)

※和光市内循環バスについては令和6年1月の見直し時にオープンデータ化を完了している。また、路線バスにおいてもオープンデータ化が進んだことにより、オープンデータ化率が100%となった。今後はバスロケーションシステム等、オープンデータの効果的な活用方法についても検討を行う。

評価指標②：情報提供等の整備箇所数

現状値	目標値	達成状況
1箇所 (R2年度)	4箇所 (R8年度)	1箇所 (令和8年2月現在)

※令和6年1月に和光市駅南口総合案内板の修繕をおこなった。今後は主要バス停における乗り継ぎ案内等の設置により、分かりやすい案内の在り方等について検討を行う。

評価指標③：市民の満足度（再掲）

現状値	目標値	達成状況
29.4% (R2年度)	約40% (R8年度)	※地域公共交通計画見直し時に実施予定の市民アンケート結果より把握

※市民の満足度については、地域公共交通計画見直しの際に実施予定の市民アンケート（対象者数：3,000人）により達成状況を把握する。

2-5 目標 5_交通サービスを提供するための基盤整備及び体制構築

評価指標①：交通空間の整備箇所数

現状値	目標値	達成状況
— (R2年度)	5箇所 (R8年度)	バス待ちスポットの増設：3箇所 待機用ベンチの設置：1箇所 (令和8年2月現在)

※令和6年1月の市内循環バスの運行見直しに伴い、近隣にバス停が新設された公共施設をバス待ちスポットとして新規登録した。なお、バス停が廃止された施設において1箇所廃止した。

また、和光市駅南口バス停に、和光市ロータリークラブのご協力により待機用ベンチを新規設置した。引き続き、バス待ちスポットの増設等の施設整備を推進する。

評価指標②：部会・研究会等の開催回数 **(達成済)**

現状値	目標値	達成状況
— (R2年度)	10回 (R8年度)	25回(部会6回、研究会19回) (令和8年2月現在)

※和光市公共交通研究会については、定期的な開催により意見交換等を行ってきた。当初の目標値は達成しているところであるが、令和8年度においては地域公共交通計画の見直しに向けた意見交換等を実施する。

評価指標③：モビリティマネジメント実施回数 **(達成済)**

現状値	目標値	達成状況
— (R2年度)	5回 (R8年度)	7回 (令和8年2月現在)

※市内で実施されるイベントにて市内循環バスや自動運転サービス等のPR活動を実施した。また、令和7年11月の市民まつりにおいては、地域公共交通や自動運転に関する情報発信や子供を対象とした自動運転体験等を実施した。

2-6 目標 6_多様な交通サービスの有機的な連携

評価指標①：主要拠点でのバス同士の平均待ち時間

現状値	目標値	達成状況
約30分 (R2年度)	約10分 (R8年度)	約21分 (R8年2月現在)

※市内循環バスの運行見直しに伴い、和光市駅南口での埼玉病院方面行のバスへの乗り継ぎ時間(平均)は約8分減少したが、現状において目標値の達成に至っていない。民間バス路線との乗り継ぎ利便性の向上のほか、限られたバス車両台数の中で、効率的な移動手段の在り方についても検討を要する。

3. 各施策の取組状況と今後の課題

現計画の和光市地域公共交通計画における目標達成に向けた施策に対する評価検証は、以下のとおりです。

事業評価	<p>A：予定通り完了または完了予定の施策</p> <p>B：進行中だが、予定から遅れている施策</p> <p>B'：内容または方向性を変更して、進行中の施策</p> <p>C：現時点でまだ着手できていない施策</p> <p>D：実施の是非について見直しが必要な業務</p>
------	---

今後の見直しの必要性	<p>—：完了した施策</p> <p>◎：さらなる発展的な取組みを検討することが望ましい施策</p> <p>○：今後も継続することが望ましい施策</p> <p>△：事業内容を見直して継続することが望ましい施策</p> <p>▲：事業内容の見直し及び継続についても検討すべき施策</p>
------------	--

計画目標	施策	事業	取組状況	事業評価	見直し/今後の課題	
目標1	【施策1】 路線バス等の維持・充実	事業 1-1 新たな拠点整備等に合わせた路線整備	○外環側道車線整備工事、自動運転バスによる実証走行 ○外環側道外回り及び内回りに6ヶ所のバス停を新設	B	○	<ul style="list-style-type: none"> 市北部地域のまちづくりや拠点整備に合わせ、効率的な路線について事業者と協議・検討を行う。 路線バス減便や路線廃止の相談があった場合、バス交通の維持に向けた協議・検討を行う。
		事業 1-2 利用実態に見合った効率的な運行見直し	○現在のところ、大幅な減便や路線廃止の相談等はない	C	○	
目標2	【施策2】 市内循環バスの再編・見直し	事業 2-1 移動ニーズに合ったコンパクトな運行への見直し	○市内循環バス経路再編（令和5年度） ○3⇒5路線による運行範囲の拡大と、路線距離の短縮によるサービス拡充	A	○	<ul style="list-style-type: none"> 再編後の利用状況や利用ニーズに応じて、継続的な事業評価検証と見直しの検討、実施が必要である。
		事業 2-2 路線バスとの重複・競合の解消		A	○	
目標3	【施策3】 新たな移動手段の導入	事業3 小規模需要及び狭隘道路地域への新たな移動手段の導入	○ラストワンマイル・モビリティの事例収集 ○3⇒5路線による運行範囲の拡大と、路線距離の短縮によるサービス拡充	B	◎	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報等を参考に和光市に適したラストワンマイル・モビリティについて検討する。

目標4	【施策4】 総合的な情報提供・利用案内	事業 4-1 公共交通のオープンデータ化	○市内循環バスのオープンデータ化(令和6年度) ○GTFS-JP 規格でのオープンデータ化実施	A	-	・バスロケーションサービスなど、オープンデータの効果的な活用について検討を行う。
		事業 4-2 情報提供ツールの作成事業	○市内循環バス総合案内マップの作成(令和5年度) ○運行概要、路線図、時刻表、乗り継ぎ案内等を掲載した配布資料を作成	A	◎	・広報紙などによる継続的な情報発信や市内イベント等による情報発信のほか、路線バスとの連携による情報充実を行う。
		事業 4-3 主要拠点における案内強化	○和光市駅南口総合案内板の改修実施	B	◎	・和光市駅南口以外についても分かりやすい案内板等への見直し検討を要する。
		事業 4-4 MaaS アプリ構築等の検討・研究	○MaaS アプリの構築・導入に係る検討 ○公共交通ポータルサイトの作成	B	○	・公共交通ポータルサイトの利便性や周知率の向上を行う。 ・MaaS アプリの事例収集を行い、和光市に適した手法等について検討を行う。
目標5	【施策5】 交通空間・運行環境の整備	事業 5-1 和光市駅北口周辺の交通空間・道路整備の推進	○和光市駅北口駅前広場検討委員会との連携による検討 ○外環側道の車線整備	B	◎	・和光市駅北口整備の進捗に併せ、担当職員や関連事業者との協議により、公共交通を利用しやすい環境の在り方を検討する。
		事業 5-2 バス待ち環境の整備	○市内循環バスの運行見直しに併せた、バスまちスポットの登録施設の増設 ○和光市駅南口バス乗り場へのベンチ新設	A	○	・バスまちスポット増設検討 ・停留所における待機環境改善策の検討
		事業 5-3 車両のバリアフリー化	○ノンステップバス導入促進事業補助金による、バス事業者のノンステップバス導入支援	A	○	・引き続き、ノンステップバス導入補助金により、ノンステップバスの導入を支援する。

目標6	【施策6】 市民・地域・民間企業等と共に考える場づくり	事業6-1 部会・研究会の継続・発展	<ul style="list-style-type: none"> ○地域公共交通事業者部会 ・開催実績 令和3年度：3回 令和4年度：1回 令和5年度：1回 令和6年度：0回 令和7年度：1回 ○公共交通研究会の継続的な開催 ・開催実績 令和3年度：5回 令和4年度：9回 令和5年度：2回 令和6年度：1回 令和7年度：3回 	A	○	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者部会については、市内循環バスにおける複数事業者間の足並みを確認する場であるとともに、さらなる事業者間連携に向けた協議及び情報共有の場であることから、継続的に開催する。 ・公共交通研究会については、地域住民を交えて運行について協議することが出来る貴重な場であることから、今後も継続的に実施を図る。
		事業6-2 地域・企業・学校等と連携したモビリティマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ○市内イベント(わこらぼフェス、市民まつり)におけるPR活動等を実施 ○転入者に向けたバスマップ配布 	A	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・市内イベント等への積極的な参加によるPR活動のほか、これまで公共交通に接していない市民へのアプローチについても検討する。
目標7	【施策7】 多様な交通サービス等との連携	事業7-1 交通拠点における乗場・ダイヤ調整	○市内循環バスのダイヤ検討時の乗り換え時間の考慮	B	○	<ul style="list-style-type: none"> ・市内循環バスの運行見直しに伴い、乗り換え時間の平均は9分減少した。 ・乗り換え時間のほか、乗り換えを不便に感じない方策についても検討を要する。
		事業7-2 公共交通とその他移動サービスの連携方策の検討・研究	○福祉担当部局との継続的な協議により、現在の移動支援制度から漏れている方の支援の在り方について検討	A	○	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な移動に困難を有する方を対象とした、和光市公共交通不便地域タクシー利用料金助成事業の実証を開始した。 ・当該事業の実証結果をもとに、効果的な支援のあり方についても継続的に検討する。
		事業7-3 公共交通と福祉施設の連携方策の検討・研究				

目標 8	【施策8】 運賃施策	事業 8-1 路線バスと市内 循環バス の運 賃格差の是正	○和光市内循環バス の運行見直しに併 せ、路線バスの初乗 り運賃に合わせた 運賃への見直し	A	○	<ul style="list-style-type: none"> 和光市内循環バスの運行見直しに併せ、運賃及び優待乗車制度の見直しを行った。 	
		事業 8-2 市内循環バスの 利用者（受益 者）負担に基づ く料金改定	○優待乗車制度の対 象者及び優待内容 の見直し。				
		事業 8-3 乗り継ぎ運賃割 引	○市内循環バスにつ いてはこれまでど おり、乗継券を発行 する。	A	○		<ul style="list-style-type: none"> 乗継券については引き続き発行を続ける。 利用者の乗継券への認知度を上昇させる取組についても検討する。
		事業 8-4 市内公共交通等 のサブスクリ プション（定額 制）化の検討・研 究	○定額乗車制度の実 証事業を行う。	A	○		<ul style="list-style-type: none"> 市内循環バスについては定額乗車券の実証事業を開始した。 実証事業の結果を踏まえ、対象者や運用方法についても、引き続き検討を行う。